

しば た さい いち ろう

柴田才一郎



柴田才一郎（1864～1945）

出典：『創立二十周年記念誌』

尾三の地、工業の野はのぞみ豊けし — 愛知県立工業学校の初代校長 —

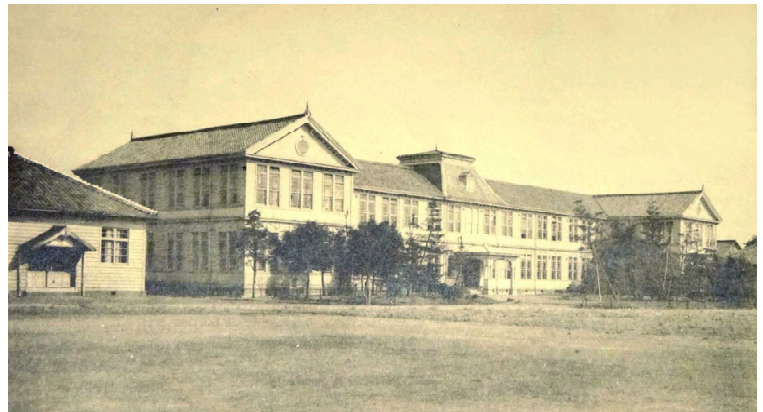
柴田才一郎は、長野県北安曇郡会染村（現北安曇郡池田町）の旧松本藩邸で1864（元治元）年に生まれた。1881（明治14）年に松本中学校を卒業し、東京職工学校（東京工業学校、東京高等工業学校を経て現在の東京工業大学）へ進学し、1886年に化学工芸科を卒業した。卒業後、和歌山県中学校の教員として2年間勤め、次いで足利で染織工場の指導をしていた柴田を東京工業学校の名校長と言われた手島精一校長より呼び寄せられ、同校の助教授、教授として10年間務めた。同校に赴任して程なくドイツを中心とする欧米に留学することを命ぜられ、ドイツのロイトリンゲン織物学校で1年、ウィーンの織物学校で1年間学び、ベルギー、イギリス、アメリカの業界を視察して帰国した。

■ 愛知県立工業学校の初代校長として赴任

1901（明治34）年、愛知県立工業学校の設置認可があり、工業学校新設を推進した沖守固知事は、手島精一校長に対し、柴田の校長就任を強く要請した。愛知県は綿織物、絹織物の盛んな繊維産業地であったが、当時は品質の不良が業界の不信を招いていた。県知事や実業家たちは、その挽回のために紡織・染織技術の権威者であった柴田を求めた。

校長に就任することになった柴田は、新設の工業学校を機織と染織の繊維系の学校とすることとし、当初は予科と本科（染織科・図案科）としてスタートさせ、2年後に本科を機織科、色染科、図案科に改めた。その後、1911年に機械科を増設して一般の工業学校に近づけた。

愛知県立工業学校は、1901年10月1日に開校したが、この時は仮校舎（名古屋市武平町）であった。1904年に愛知郡御器所村（現名古屋市昭和区御器所町）に新築校舎の一部が完成し、予科、普通科一部の授業を移した。翌1905年に全校舎が完成し、全面移転した。この時、色染機械や力織機などの実習設備は隣接の名古屋高等工業学校の実習工場に据え付け、共用となった。



愛知県立工業学校の本校舎（1905） 出典：『創立二十周年記念誌』

■ 名古屋高等工業学校の創設と地元繊維産業への貢献

柴田は、愛知県立工業学校の創設に尽力したのみならず、名古屋高等工業学校の創設にも関わり、文部省が当初に予定していた土木科、建築科、機械科に加えて機織科と色染科の2学科を設けることを提言し、承認させている。柴田自身は、

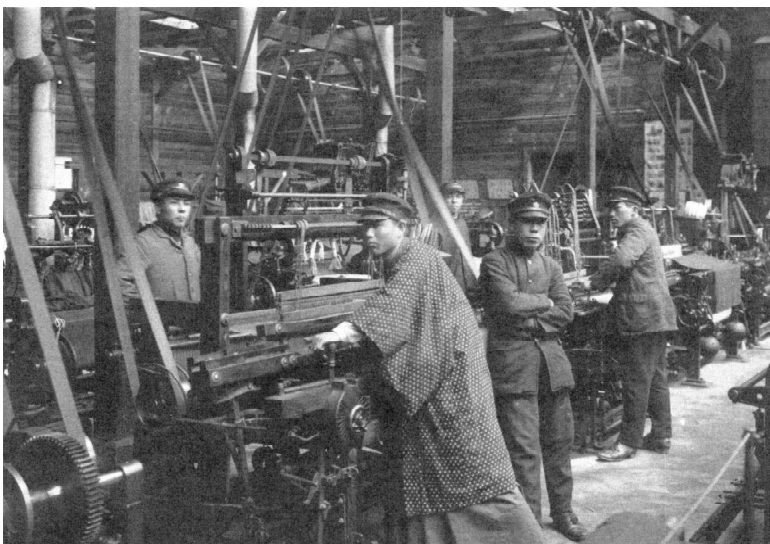
県立工業学校校長のまま、名古屋高等工業学校の講師となり、機織科の科長として機織実習を担当した。

繊維機械や染織技術の第一人者である柴田が名古屋に来たことは、繊維業界に大きな影響を与えた。とりわけ、尾西の毛織物業の創業、発展には、柴田の指導があったからこそであった。

工業学校の基礎固めを終えた柴田は、1923年に米沢高等工業学校の校長に転じた。

愛知県立工業学校は、1948年の学制改革により、新制高等学校として愛知県立愛知工業高等学校となり、2016年に愛知県立愛知総合工科高等学校として再編された。

（石田正治）



機織科（紡織科）の力織機の実習 出典：『創立二十周年記念誌』